

平成24年7月1日

(第74号)

鵜 戸



平成二十五年神宮式年遷宮



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

0987-0101

宮崎県日南市宮浦3232

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

制作編集兼発行者

鵜戸神宮社務所

暑中お見舞ひ申し上げます

「古事記」編纂一三〇〇年を迎へて



宮司 本部雅裕

「別天つ神」、「神世七代」

鵜戸山は、緑豊かな瑞々しい季節となりました。皆様には益々ご清適にお過ごしのこととお慶び申し上げます。また日頃は、鵜戸神宮に篤い崇敬の誠を捧げていただき、心より感謝致してをります。

さて今年も、元明天皇の和銅五年（西暦七一〇）に『古事記』が編纂されて一三〇〇年の節目の年を迎えました。この書の編纂の目的であり、また「稽古照今、古を稽へて今に照らす」といふ事については、前回のこの欄で記しましたので、今回は、「神のみこともち」について少しご紹介したいと思います。

『古事記』には、冒頭に高天原にて

「別天つ神」、「神世七代」がそれぞれお生まれになつたあと、伊耶那岐の神、伊耶那美の神がご誕生になります。続いて次のやうに記してあります。

ここに、天つ神のもろもろの命もちて、伊耶那岐の命・伊耶那美の命の二柱の神に、「このただよへる国を修理め固め成せ」と詔らし、天の沼矛を賜ひて、言依さしたまひき。

つまり、高天原にいらつしやるすべての神々は、伊耶那岐の命・伊耶那美の命の二柱の神に、「この稚く漂つてゐる土地を整へ固めて、国土として完成しなさい」とのご命令を発せられるのです。そして高天原に

る玉飾りのある矛を授けて、国造りをご委任になつたといふのであります。その後二柱の神は、そのご命令を持ち戴いて（神のみこともち）、矛



鵜戸神宮上空写真

(浜田建設提供)

の末より塩がしたり落ちてできた、淤能碁呂嶋に天降りされ、結婚をされます。そして日本列島を、神々を、次々にお生みになつて、修理固成のための大事業をなされたのであります。

私たちは、『古事記』編纂一三〇〇年を迎へた今、この天つ神のご命令や、二柱の神が使命達成のためにお働きになられたご事績から、神習ひに習ふべきことが大いにあります。それは、私たち日本人は、伊耶那岐の命、伊耶那美の命から生まれた神々の、その子孫であるからで、私たちもまた「神のみこともち」としての、その使命達成の責任を負つてゐると言へるのです。

ところで、我が国の現状はどうでせう。国土は荒れ、人心は混濁して、未だ「ただよへる国」のままなのではないかと思へます。大震災の直後、救援に訪れた外国人からは日本人の謙譲

の美德を称へられ、その災ひによつて私たちは「日本人の絆」をより強くしたと言はれてはきました。しかし、震災復興は遅々として進まず、瓦礫の受け入れは、個々人の利害優先で、何でも反対の国民感情があらはになつてきてゐます。

いまこそ、神に仕へる神職はもちろん、神々の子孫である日本人はこそつて、修理固成のための大事業を行ふべきであります。ご命令に応へ、この未完成、不安定な日本の社会を、より安全、より安定したものにしてゆく努力を怠つてはなりません。

それは、伊耶那岐の命、伊耶那美の命がなされたやうに、お互ひが力を合はせ、やり直しを重ねて自分自身を見つめ直し、家庭から、職場から、地域社会から、大理想の実現に努めて行く覚悟を新たにしたいものです。

(参照 新潮日本古典集成「古事記」)

鵜戸さん寄席



四月十五日、午後二時より

「第四回 柳家さん枝奉納落語会」が開催された。氏は県内新富町出身で、宮司とのご縁深く、平成二十一年より毎年当神宮にて口演いただいたりする。

来場者も年々増えて鵜戸の名物行事となつてゐる。

例祭 (二月一日)

責任役員・総代をはじめ、神社関係者・県内外の崇敬者多数参列の中、厳肅に斎行された。また、同日の境内では奉祝奉納行事として、四半的弓道大会が開催された。



宮司祝詞奏上



舞楽「蘭陵王」



参進



献幣使・宮崎県神社庁 杉田秀清庁長と楼門にて

別当宮司先賢慰霊祭 (五月十八日)

当神宮の特殊神事である神仏合同の慰霊祭が執り行はれた。潮満寺・願成就寺・王楽寺の住職にお勤めいただき、役員・総代、歴代別当宮司遺族等、多数参列の中、しめやかに斎行された。



宮司祝詞奏上



読経



祈年祭 (二月十七日)

五穀豊穰・我が国の安泰を祈る祭典。日本文化の基である農業をはじめ、工業・漁業など諸産業の生成発展を祈る重要な祭りである。



「浦安の舞」奏舞



参進

縁日大祭 (三月二十四日) 道中唄・道中再現 (二十五日)

みなさまのご繁栄と産業の発展、国家の平安を祈る縁日大祭が今年も華やかに執り行はれた。また、宮崎県の風習であった新婚夫婦が馬に乗り鶺鴒参りをする「シャンシャン馬道中」の再現、それを唄にした民謡「シャンシャン馬道中唄」の全国大会も開催された。



「豊栄の舞」奏舞



舞楽「蘭陵王」



鶺鴒さん獅子舞

お田植祭 (三月二十日)

三月十日の種まき(播種祭)の後、苗は順調に生長し、今年も田植祭の時期を迎えた。はまゆう農業協同組合より早乙女四名、鶺鴒小中学校より二・三・四年生の児童十七名にご奉仕いただき、賑やかに植ゑられた。



宮司玉串拝礼

田植祭の儀



太鼓奉納

二月十七日、大阪府在住の河野昭和氏より太鼓をご奉納いただいた。氏は、仕事柄全国各地を廻られてをり、来県の際に当神宮に参拝。その時のご縁により、今回立派な太鼓を奉納された。



ユードアー 第2回 U-DOOR 奉納音楽祭

《諸楽器演奏者》

ミキサ D・ケリソン
 キーボード 大西洋介
 キーボード 今村さつき
 フルート 勝江幸代
 尺八 佐伯智史
 和太鼓 久野尚子
 ダンス 児玉孝文
 ダンス みのわそうへい
 ダンス 豊福彬文

《雅楽器奏者神職》

鳳笙 高橋嘉樹
 篳篥 河野博文
 龍笛 中武信明
 太鼓 淵田賢二
 太鼓 中原慎太郎
 太鼓 佐師慶保

四月二十七日・二十八日の午後六時、鵜戸神宮協力のもと、イギリス人音楽家 デイビット氏による音楽祭が開催された。昨年は楽器全てを生演奏で行ったが、今回は難易度を上げミキサを導入。雅楽器と西洋楽器、キーボードやデジタルサウンドを融合させた。また、その音楽に神話を表現したダンスが入り、幻想的に鵜戸の神秘が表現された。



神門大扉破損

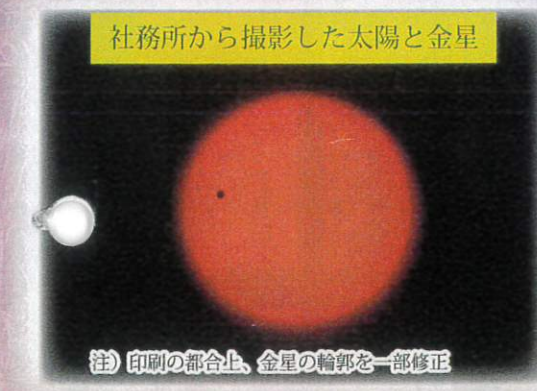


三月二十四日、この日は快晴であつたが正午前から風が強くなり、台風の接近時の風速に近く、季節の変わり目によく吹く「春の嵐」か



な・・・と感じてゐたところ、開いてゐるはずの神門海側の扉が閉じてゐた。みると門扉は根元より裂けて使用不能となつた。参拝者にけがは無く安堵したが、危険なため、すぐに参拝者の神門通行を禁止。対策協議の結果、地元後藤組へ修復工事を依頼した。四月五日より工事に着手し五月の連休には通行できるやうになつた。

金星通過



社務所から撮影した太陽と金星

注) 印刷の都合上、金星の輪郭を一部修正

六月六日、晴天に恵まれたこの日、金星が太陽と地球の間を通過する日面経過と呼ばれる現象が観測できた。午前九時頃より社務所前にて専用グラスを使つての撮影に挑戦し、なんとかカメラに収めることに成功。次に観測できるのは百五年後との事・・・

新職員紹介



（みやもとえりか）
 巫女 宮本 枝里架
 平成五年十月四日生
 日南振徳高校卒

【趣味】
 ドライブ・DVD観賞
 【抱負】
 参拝者の方に「また来たい」と思はれるやうな笑顔と対応に、心掛け、一日も早く仕事に慣れるやう、一生懸命奉仕してまいります。

いさみ太鼓奉納

五月五日、地元小中学校の生徒をはじめ、県内外の小学校の児童達五十三名が鵜戸神宮に参集し、太鼓演奏を行った。

昭和五十一年より毎年奉納してあるこの伝統行事は、ハツピ姿に鉢巻きをキュツと締め、鵜戸神宮眼下に打ち寄せる荒波を太鼓・横笛・鈴で表現。子供獅子が元気に舞ひ踊り、洞内は楽しく賑やかな音が響き渡った。



敬神婦人会奉仕活動

恵比須神社縁起飾り授与

一月十日、恵比須神社例祭を斎行。昨年十二月十二日に、境内社として御鎮座されてから初の祭典である。

参列・参拝の皆様を元気と元気で迎へしよう、と九日と十日の二日間、当神宮敬神婦人会の長友会長はじめ会員によつてお札所の奉仕活動が行はれた。



編集後記

○社報「第七十四号」をお届けいたします。
○表紙の写真是、境内にご鎮座されます鵜戸稲荷神社の参道にある山桜です。

○毎年春一番にピンクの花をつけ、優しく色づく花びらがゆれると朝露が光を反射。全体が輝くさまは心が安らぎます。
○みなさまのご参拝を心よりお待ちしております。

(高橋)

